
恋あいLIMIT

東条 嶺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋あい「IMMIT

【Zコード】

Z2190E

【作者名】

東条 嶺

【あらすじ】

6月最後の日の夜、好きな人から携帯に電話が掛かってきた・・・。でもその内容は俺にとっては！？好きな人が転校してしまつ、その前になんとか相手を振り向かせたい、だけどタイムリミットは3週間！？長いようで短い、そんな夏の物語。

プロローグ

ん？

私

「もつたいぶつてないで早く言えって

プロローグ（後書き）

初めての投稿です！…はじめてなのでおかしいところがあると想つ
のでその時は指摘してもらえるとたすかるかります。それとこには
こうした方がいいっていう意見もあつたりするとたすかります。ゆ
っくりでもいいから更新していくと思つてるので見捨てないでく
ださいね、では今回はこのへんで。

第1話・7月1日(1)

「ふあゝ・・・朝か・・・」

昨日の電話から一夜明けつて言つてもほとんど寝れなかつたけど理由は簡単・・・『アイツ』のせいだ

「うひつて今、お父さん単身赴任してるでしょ？それで今度海外に転勤になるから

家族で一緒に行くことになつたんだ」

• • • • • • • • • • • • • • • •

「光輝？ 聞いてる？」

「えつ？」

「はあ、やつぱり聞いてなかつたんだ」

「いや聞いてたつて」

「じゃあ今何の話してた?」

「由衣が転校するって話・・・・・・だね」

「そうだよ、めずらしいね光輝が話しているなんて」

「ああ・・・・・・そうかもな」

「でも心配だなあ光輝を1人置いて行くの・・・・」

「なんで?」

「だつていつも人の話聞いてないじゃん光輝つて、いつもやつて電話で私と話しててるときとかだけならまだいいんだけど先生の話とかも聞いてないからさ、ちよつと心配なんだよね、幼馴染として」

「・・・・・・大丈夫だよ。それでいつ行くの?」

「夏休みに入つてすぐだから21日ぐらいかな?」

「21日つて言つたら・・・・」

「うふ、ちよつど3週間後だね」

「えつ・・・・・・もつ口付変わつてたのか

「そうだよ、もつ2月なんだよ

「じゃあもうそろそろ寝たほうがいいな

「そうだね、じゃお休み光輝」

「ああ、お休み」

ツーツーツー

「3週間か、長いんだか短いんだか・・・・・・ふあ～」

やつぱり考え事があつたとしても眠いものねま眠い

「まあ授業中寝ればいいんだけどわ」

そんなことを考えてたら

「駄目だよ授業は聞いてなきやー」

「うわっ！…なんだ結奈か

「はいはい、どーせ私は由衣じゃなこですよ

「なんでそこでアイツが出てくんだよ

「なんとなく？」

「疑問形でかえされても・・・・ってかアイツの家にしきじやないだ

「ろ

「ん～そういえばそうだったね

「」

で、今俺が話している相手の名前は新藤結奈
こんな奴だけど、バスケ部のエースで学年1位の成績だったりする。

・・・・・ほんと向でこなせつが?つてこつも細つてたりする

「何かいま失礼なこと考へてなかつた?」

「か、考へてないつて」

「ふうへん・・・まあいにけどね」

そんなこんなで話してこるひびに学校前の坂についた

「毎日毎日この坂登るのマジめんじくせえ」

「学校が平地にあればこな坂登んなくていいのこね

この学校には4つの校門があつて、それぞれ一本ずつ坂がある。そして今俺たちが登つているのが南門の坂「南坂」、4つの坂のうち一番長い坂である。

「何で家こちにあるんだる・・・・・・」
「そななこと言つてもしようがないでしょ、ほり早く行かないと遅刻するよ?」
「はいはい」

「ひどいものよ」南坂を登りはじめたのだった

ガガガガガ
・・・・・ピシヤン！！

俺たちの後ろで校門の閉まる音がした

「ふう～今日もギリギリだつたな～」
「誰のせいよ・・・・」

一応15分前ぐらいには教室に着くように家を出たはずだつたんだ
けどな・・・・・

遡ること十数分前

「……………」

「・・・まさか・・・・・また忘れ物？」

・・・・・すいません、スパイク忘れました・・・・・

「謝ってる場合じゃないでしょ……」あい、戻るよ……。」

「はい」

「」んなことがあつたわけで遅刻ギリギリになつたわけだ」

「何してんの？？早く行くよ」

ふと気づくと隣にいたはずの結奈がいつの間にかいなくなっていて、遠くで俺を呼んでいるのが分かった

「あつわりい今行く！」

結奈の方へ行こうとした瞬間

「おつはよー光輝ーー」

後ろのほうから声がした瞬間背中に・・・・・

「ハハハハハ、わりちょっと勢い付けすぎた？」

「あたりまえだろ……………」

そして隣にいた男も

「いつものことじゃん、別にいまさら驚かなくても……そもそも警戒してなかつた光輝が悪い！！」

「痛すぎて怒る氣にもなれねえよ……………」

こいつの名前は早坂景介。はやさかげいすけ ちょっとだけ…………いや実はかなり変わつてゐる奴で、去年同じクラスで仲の良かつた奴の1人だ、そしてもう一人、おれのことを思いつきりぶつ叩いたのが渡邊大輔。わたなべだいすけ こいつも去年同じクラスでつるんでいたやつの1人だ、ちなみにこの2人、周囲からは『ゲーセンオタク』とまで言われるほどゲーセンに行つてゐる、2人共部活やつてんのにいつゲーセンなんて行つてるんだ……？それはさておき、実は去年4人か6人で行動していることが多かつた、要するにあと2人いるわけで、そいつらは北門の方から來てゐる、すると……

「凄い音がしたから來てみたらやつぱりか……………」

そう、こいつが柊圭司ひいらぎけいじ、趣味がギター（かなりウマイ）で、テニス部のエースだつたりする…………が、部活はよくサボるし、約束事はドタキャンすることがほとんどという結構いい加減な奴だつたり、するいい奴ではあるんだけどね…………ついでにこいつを含め4人とも遅刻の常習犯だつたりする、そしてそれにいつも巻

き込まれるのが結奈と

「こつもこつもホント飽きないよね4人とも・・・」

この朝比奈由衣である、すると圭司が

「4人・・・ってなんで俺も入ってんのや!?」

「今日は圭司が携帯忘れたのを取りに帰ったから遅くなっただけでいつもは南門でまちぶせしてるじやん」

「いつもってほどじやないだろ」

「学校のある5丁目閑中4丁目閑はやつてこいるのをこつもと言わなければね」

「・・・」

この2人は変わらないな~って思つほど、小さい頃から同じようなやつとりをしている2人。俺と由衣と圭司と結奈は幼稚園の頃からずっと一緒にいわゆる幼なじみってやつだつたりする・・・まあここまでくるとびつつかつて言つと腐れ縁のほつが正しい氣もしてくるけど・・・そんなやつとりの中由衣が思い出したよつて

「あつー・やつこえぱわつれおいつと想つてたんだけど・・・
「なにを?」

なんとなく嫌な予感がしたので聞いてみると

「もう本鈴なり終わってるよ・・・って

「早く言えよそれ・・・」

「気がつくと8時40分、あと少しで1時限の始まる時間だった

「行くぞーーーわずかに1時間まで遅れるのはまずい

そして全員で俺たちの教室である2・Bに走った

これが俺達のいつも登校風景である

第1話・7月1日(1) (後書き)

7月1日つて書いてあるのにほとんど6月30日の話になつちゃいましたね・・・・・まあいつか、プロローグ短すぎたしこの話はプロローグの続きだと思ってください。つてなわけで次からはちゃんと話を書いてこうと思つてます。感想・意見などお待ちしますね・・・・・あ! 言い忘れてたけどタイトルは「れんあいりみつと」つて読みます、まあ皆さん分かっているとは思うんですけど一応言っておいた方がいいかなあと。ではまた次回

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2190e/>

恋あいLIMIT

2011年1月26日12時01分発行